

補助金裁判 最高裁上告棄却に対する大阪府オモニ連絡会 抗議声明

去る11月28日、大阪朝鮮学園が大阪府と大阪市を相手取り訴えた補助金裁判において一審、二審に続き最高裁上告が棄却されました。

私たちは、1審、2審での不当判決に続き今回の上告棄却という結果を決して認めることができません。公正公平な判断により行政の過ちを正すべき司法が、最後まで行政の差別的措置から子ども達を救済しなかったことに、強い憤りと深い悲しみを禁じえません。

大阪の朝鮮学校が大阪府から40年近くにわたり受給してきた助成は、朝鮮学校が「地域社会の構成員としての教育が実施されている」との認識のもと行われてきました。

ウリハッキョ（私たちの学校）は常日頃から、地域に根ざした教育を実施し、多文化に対する相互理解と友好親善をめざし、日本学校や他の外国人学校とも多彩な交流を深めてきました。

朝鮮学校の子どもたちは、母国語や民族の歴史や文化を学ぶことを通じ、自分のルーツについて知り、考え、大切にすることこそ、他者を理解し尊重することを同時に学んでいます。

そんな朝鮮学校に通う生徒たちは、日本で生まれ育ち、朝鮮と日本の友好の架け橋となる、私たちのかけがえのない大切な未来です。

在日朝鮮人に対する偏見や敵意がはびこるこのような状況の中でも、朝鮮学校と日本の学校の先生方や子どもたち、保護者たちは多様性や相互理解を深める取り組みを継続しています。決して「府民の理解が得られない」「公共性に欠ける」と言われるような教育は行われていません。

大阪補助金裁判において、司法はこのような朝鮮学校が社会のなかで担ってきた役割、朝鮮学校でまっすぐに育っている子どもたちを直視せず、行政の手続き上の過失さえも擁護して大阪府と大阪市を「救済」したことは、国際的な人権感覚からも大きくかけ離れたものです。

この間、国連<子どもの権利委員会>や<人種差別撤廃委員会>など様々な国際機関にて、国や地方自治体の朝鮮学校への差別を是正することを求める勧告がたくさん出され、国際的な非難の声も日を追うごとに高まっています。

私たちは、来年1月に行われる国連<子どもの権利委員会>日本審議に合わせて、3度目の全国オモニ代表団の派遣を決定し、大阪からも代表が参加します。いまこの地で起きていることを国際社会へしっかりと伝えたいと思います。

朝鮮学校の子どもたちは、自分たちを応援してくれている日本の方々がたくさんいらっしゃり、その方々に支えられていることをしっかり認識しています。

でも、国や行政が公に行っている官制ヘイトや在特会をはじめとする一部の心無い人々のヘイトスピーチに心を痛み、安心安全を脅かされる中、保護者たちは不安をかかえながらもいつも笑顔で子どもたちを送り出しています。

私たちは、対立を望みません。

すべての子どもたちが平等な学習権を享受し、だれもがいきいきと生きられる社会を実現したい。

朝鮮学校の子どもたちにも社会的な保障を差別なく実施してほしい。

たくさんの方々の理解を得ながら、子どもたちが安心安全に学べる環境を整えたい。

ただ、それだけです。

いま、朝鮮半島をめぐる世界情勢は大きく動き出しました。

4月27日に合意された南北首脳による板門店宣言と6月12日に発表された歴史的な朝米共同声明は、平和を愛する世界の人々に大きな希望を与えました。胎動し始めた新たな潮流の中で、一日も早く朝鮮と日本の関係を正常化し、差別と排外主義を許さない平和な社会づくりが求められています。

平和への道は逆戻り出来ません。させてはいけません。

私たちはこれからも、たくさんの方々の理解を得ながら、手を取り合い、朝鮮学校で学ぶ子どもたちへ差別なく学ぶ権利が保障され、安心安全に学べる環境が整えられるその日まで、あきらめず、力をつくして参ります。

朝鮮学校で学ぶ、子どもたちの笑顔・未来のために！

みなさまの一層のご支援をよろしく願いいたします。

2018年12月17日 大阪府オモニ連絡会 一同

生野西オモニ連絡会・生野初級学区オモニ連絡会・東大阪学区オモニ連絡会
中大阪学区オモニ連絡会・城北学区オモニ連絡会・南大阪学区オモニ連絡会
福島学区オモニ連絡会・北大阪学区オモニ連絡会